

の報告を行った。

同大学病院脳神経外科の影照喜准教授ら5人が、住民約170人を前に講演。徳島市周辺で脳卒中を発症した場合に比べ、郡内では介助を必要とする障害が残るケースが多いことに触れて、影照准教授は「専門医の不在や郡外の専門病院への搬送が長時間になることが原因」と指摘。行政による医療環境整備の必要性を訴えた。

また、3時間を超えて医療機関を受診した人が56人中26人いたことについて「住民に病気の症状や対処法など正しい知識を啓蒙していかなければならない」と話した。

専門医による脳卒中や心筋梗塞など1分1秒を争う病気の症例や予防についての説明もあった。同プロジェクトは来年3月末まで続けられる。

(城福章裕)

脳卒中患者の
研究結果報告
牟岐で徳大准教授ら
海部郡をモデルに、へ
き地の救急医療体制に関

する研究「海部プロジェクト」に取り組んでいる徳島大学は4日、牟岐町川長の海の総合文化センターで、郡内の脳卒中患者を対象にした研究結果